

令和5年度 学校評価報告書

小樽市立西陵中学校
校長 吉岡 智尋

1 本年度の重点目標

「3つの力」を育てるための「3つのタスク」
①自ら学ぶ力 ②人とつながる力 ③ともに未来を創る力

2 自己評価結果・学校関係者評価の概要と今後の改善方策

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
			評価	取組状況・達成状況	
1 未来を創る力の育成	確かな学力の育成	全国学力・学習状況調査における数学の平均正答率が全国平均の±2.0p以内(R4 -3.4p)。	B	習熟度別少人数指導のほか、週末課題や下位層の生徒へ繰り返し指導を行い、学力向上を図ったが、今年度の本校の結果は48pで、全国(51.0p)と比べ-3.0pとなった。	◎
	特別支援教育の充実	特別支援教育コーディネーターを中心に校内支援委員会を月1度開催する。	A	毎月定例で校内支援委員会を開催し、各学年から通常学級に所属する特別な支援を要する生徒について情報交流を行ったほか、必要な手立てについて協議した。	◎
	国際理解教育の充実	英検に延べ30名以上参加(R4 29名)	B	今年度本校で3回の英検を実施したものの、部活動の大会や小学校の学校行事と重なり、延べ27名の参加となった。	◎
	理数教育の充実	数学の授業が「分かる・おもしろい」「どちらかといえば分かる・おもしろい」と回答する生徒80.0%以上(R4数学 77.5%)	B	習熟度別少人数指導のほか、放課後学習や樟こさポート事業を活用した長期休業中の学習会などを複数回開催したが、結果は71.5%で達成することができなかった。	◎
	情報教育の充実	全ての教科でchromebookを活用する割合100%	A	GIGAスクールサポーターによる支援訪問等を参考にしながら各教科で研修を進め、全ての教科でchromebookを活用する授業を展開することができた。	◎
	キャリア教育の充実	将来の夢や目標を持って努力している「どちらかといえばしている」と回答する生徒80.0%以上	B	コロナ禍が明け、学校運営協議会と連携し、市内27の事業所で職場体験学習を実施するなど、キャリア教育の充実を図る取組を行ったが、生徒アンケートの結果は76.5%となり、達成することができなかった。	◎
改善方策	理数教育の充実に向け、理科の観察・実験・考察の過程や数学の課題解決場面で、1人1台端末を活用した他者参照の活動を取り入れる。また、現在、次年度以降に向けて、生徒が自ら問いを立て、ふるさと小樽の未来を創るために必要な課題を探究する「総合的な学習の時間」のカリキュラムの再編成に取り組んでおり、稲穂小学校との連携・接続を考慮しながら、発達段階に応じた系統的な力が高められるようなプログラムを編成する。				
学校関係者評価委員による意見	校長のリーダーシップのもと、先生方のご尽力により、生徒が健やかに成長する姿に日々感銘を受けております。学力の中でもSociety5.0を生き抜く力として、OECD2022の中でも明記されるウェルビーイングやレジリエンス等、数値による診断によらない非認知能力としての学びに向かう力等は、伸びているのではないかと思います。				
2 豊かな心の育成	道徳教育の充実	「自分にはよいところがある」「どちらかといえばある」と回答する生徒75.0%以上(R4 70.0%)	B	心に響く道徳教育推進事業による折茂武彦氏や協会病院の助産師を招いた全校道徳授業を複数回開催するなど、道徳教育の充実を図ったが、結果は70.6%で目標を達成することができなかった。	◎
	ふるさと教育の充実	「地域や社会で起こっている問題に関心がある」「どちらかといえばある」と回答する生徒80.0%以上(R4 77.0%)	B	校区内清掃や職場体験学習など、ふるさと小樽の地域人材や資源と関わる学習を充実させてきたが、結果は73.5%となり、目標を達成することができなかった。	◎
	読書活動の推進	「読書が好き」という生徒の割合80%以上	B	朝読書や読書ゆうびんの取組のほか、学校司書が学校図書館の環境整備を進めたり、図書委員会と連携した読書推進に係る取組を年間を通して行ったが、結果は73%となり、達成することができなかった。	◎
	体験活動の推進	地域の清掃活動等の社会体験活動の全学年実施100%	A	5月2日に全学年で、PTAと連携した校区内清掃活動を実施することができた。	◎
	コミュニケーション能力の育成	「友達と協力するのは楽しいと思いますか」の質問に対し、「当てはまる」と回答する生徒の割合70.0%以上(R4 65.8)	A	各教科で言語活動を充実させ、協働的な学習を意識した授業づくりを年間を通して実施してきた結果、達成率は86.8%となり、目標を十分に達成することができた。	◎
	いじめの防止や不登校児童生徒の支援の充実	「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うか」の質問に対し、「当てはまる」と回答する生徒の割合90.0%(R4 81.7%)	B	小中連携したいじめ防止サミットの実施、いじめ防止標語の全校的な取組のほか、支持的風土のある学級づくりを継続したが、結果は81.0%となり、目標を達成することができなかった。	◎
改善方策	今年度、新たな取組として、学校司書、学力向上担当、国語科、各学級担任が関与し、新聞を活用した表現力・記述力を向上させる取組を年間を通じて行うことができた。今後も、時事的で身近な記事内容から、子どもの思考を揺さぶり、深く考えさせ、自分の言葉で表現させる取組を充実させ、豊かな心の充実を図る。				
学校関係者評価委員による意見	・道徳教育の充実については、外部講師を招いての全校道徳授業を行うなどの取組の結果、昨年度のポイントから微増ながら向上している点は評価できる。 ・校区内の活動や職場体験のほかにも、小樽で活躍されている方や小樽出身の方のお話を聴く機会があっても良い。				

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価	
			評価	取組状況・達成状況		
3	健やかな体の育成	体力・運動能力の向上	全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「上体起こし(筋パワー・筋持久力)」「長座体前屈(柔軟性)」「ハンドボール投げ(巧緻性・投球能力)」を男女とも2回目の平均が1回目の平均よりプラス2P以上	B	上体起こし(男子+1.56,女子-0.28)、長座体前屈(男子+4.07,女子+1.22)、ハンドボール投げ(男子+1.00,女子+0.45)となり、ほとんどの種目で1回目よりも2回目の平均が高くなったが、目標を達成した種目は男子の長座体前屈のみであった。	◎
		食育の推進	「朝食を毎日食べていますか」の質問に対して「食べている」「どちらかといえばしている」の割合90.0%以上(R4 88.4%)	A	家庭科の授業はもちろんのこと、感染症対策に係るバランスのとれた食生活について、養護教諭が定期的に保健だよりを発行するなどした結果、達成率は95.2%となり、目標を達成することができた。	◎
		健康教育の充実	時事的な話題を取り入れた保健だよりの定期発行と保健だよりを活用した学級指導の実施10割	A	熱中症や感染症対策、SOSの出し方に関わる内容など、時事的な話題を取り入れた保健だよりを定期発行し、発行日に各学級で指導を行うことができた。	◎
改善方針	今年度新たに取り組んだ、北海道教育委員会主催の令和5年度どさん子元気アップチャレンジ「シングルロープ(短縄跳び)全道大会」なわとびトライにおいて、全道で上位50名以内に本校生徒7名が入るなど、成果を上げることができた。次年度も、生徒各自の体力や興味・関心に応じて、自己記録の更新や運動習慣の確立を目指し、体力・運動能力の向上に向けた取組を継続して実施する。					
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> 客観的な指標として、全道や全国と本校結果を比べることも大切であるが、生徒が自分の記録を客観視し、自己調整を図りながら、記録を伸ばそうとする態度を育成することがより大切と考える。そのために、記録の可視化を続けてほしい。 本校は、まだ和式トイレが多く、衛生環境も良好ではない。健やかな体を育成する観点からもトイレの洋式化を含めた修繕を望みたい。 					
4	家庭・地域との連携・協働の推進	家庭教育支援の充実	保護者アンケート「生徒は生活習慣が身に付いている」に対し、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」の割合が75.0%以上(R4 70.1%)	B	「おたるスマート7」や市P連教育講演会のオンデマンド配信など、生活習慣の改善に係る啓発を行ってきたが、達成率は63.2%となり、達成することができなかった。	◎
		学校と地域の連携・協働の推進	保護者アンケート「学校は地域や家庭と協働して学校づくりを進めている」に対し、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」の割合が85.0%以上(R4 82.3%)	A	学校運営協議会の定期開催や各種行事への保護者の参加を促し、地域や家庭と連携した教育活動を展開した結果、達成率は87.3%となり、達成することができた。	◎
改善方針	年間2回、長期休業明けに「生活リズムチェックシート」を全校生徒に配付し、生活習慣の改善を図る指導を行ってきたが、目に見える成果は上がっていない。次年度は、市教委の「おたるスマート7」はもとより、道教委のリーフレットや取組(「ノーゲームデイ」等)を提示したり、PTAからも発信したりするなど、一層連携・協働した取組を推進する。					
学校関係者評価委員による意見	家庭教育支援の充実に係る保護者アンケートは「生徒は生活習慣が身に付いているか」について、各家庭で必要となる生活習慣をいくつか項目立てし、それぞれの内容項目で自己評価していると思うが、項目に個人差があるのではないかとと思われる。特に、丁寧に生活習慣を指導されるご家庭では謙遜を含め評価が低くなる場合もあり得るのではないかと。朝起きる時間、夜寝る時間、携帯電話を勉強以外で使う時間の約束が守られている等の同じ項目に対する各家庭の回答であれば、保護者の判断基準も統一できるように思う。					
5	学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現	学校段階間の連携・接続の推進	中学校から小学校への乗り入れ授業を年2回以上実施	A	理科専科指導により年間を通して、乗り入れ授業を実施することができたほか、保健体育科教員が1学期に「かけこ教室」、2学期に「ボール投げ教室」を実施し、小学生の体力向上を図る取組を行うことができた。	◎
		教育環境の整備・充実	タブレットを活用したミニ研修等を年間2回以上実施する。	A	GIGAスクールサポーターによる訪問支援を活用し、1回目は全体研修、2回目は個別相談の場を設け、業務改善につなげることができた。	◎
		教職員の資質・能力の向上	新たな教員育成指標を踏まえ、1人につき複数回の研修参加	A	新たな教員育成指標に基づき、定期的に受講奨励を行った結果、全ての教員が1人2回以上研修に参加した。	◎
		学校運営の改善	月45時間以上の超過勤務15%以下	B	4～11月までの時間外在校等時間45時間以上の教員は、延べ40人で、達成率は26.3%となり、達成することができなかった。	◎
		学校安全教育の充実	保護者アンケート「学校は安全管理に努めている」に対し、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答する割合85.0%(R4 83.2%)	A	年2回の避難訓練(土砂災害、地震)を実施したほか、施設設備の定期的な安全点検を滞りなく実施した結果、達成率は89.8%となり、目標を達成することができた。	◎
改善方針	学校運営の改善について、次年度、PTA会費や生徒会費、教材費などの学校徴収金を原則銀行口座による引落しにするシステムを導入し、職員による現金の回収作業の軽減や紛失・盗難等への不安やリスクを取り除く取組を行う。また、各種アンケートの集計や採点業務などを、1人1台端末のアプリケーションを活用することで時間短縮を図り、教員の働き方の改善を図る。					
学校関係者評価委員による意見	学校運営の改善については、教職員がじっくりと一人一人の生徒と向き合える時間や、学力向上に向けて学びを充実させるための教材研究を行える時間が確保できる教職員の働き方改革が進むことを願っている。					
社会教育に関連する目標(目標6～8)		市の総合博物館や美術館、図書館等と連携した教育活動年1回以上実施	A	図工美術展への出展や読書ゆうびんの掲示など、美術館や図書館と連携した教育活動を展開することができた。	◎	
改善方針	今年度は、上記の取組のほか、本校文化部長が長期休業期間中に、総合博物館で開催された「科学の祭典」にブースを出店し、市内の小中学生に対し、実験教室を展開し、盛況を得ることができた。次年度も、理科教員と協働しながら実験内容を改善し、社会教育に広く還元できる取組を実施する。					
学校関係者評価委員による意見	恵庭市では、市立図書館と学校図書館がオンライン連携されており、子どもたちが調べ学習等で利用したい書籍を即時オンラインで蔵書選択し、取り寄せることができる仕組みがある。小樽市も、スクールライブラリーなど、市立図書館と連携した事業はあるが、電子化を図ることで個別最適化された学習環境がさらに進むことが期待されるため、電子図書館の創設を望みたい。					